

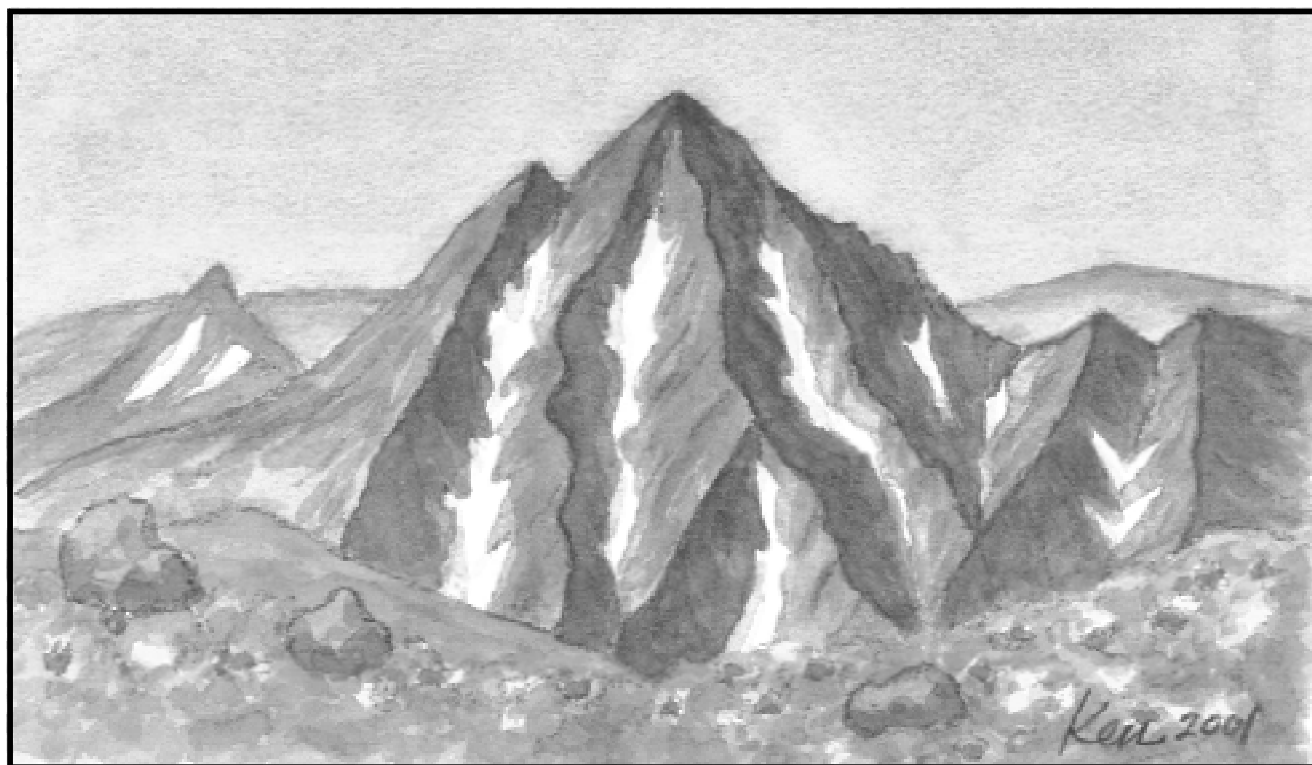


自然観察

No. 81
2006
11月

目次

・ 海岸植物群落調査への参加・協力ありがとうございました	2
・ 研修報告 2006年度地方研修会報告	3
・ 自然環境と廃棄物 第2回 コルチカムと生ゴミ堆肥	4
・ 第17回滝野の自然に親しむ集い決算報告	5
・ 会員の皆さまへ 各部へ入部のお願い	6
・ 事務局からお知らせ 2006年忘年会のお知らせ	7
救急救命講習会のご案内	7
・ フィールドニュース 旭川市 千歳市	8
・ 参加者の声	8
・ 観察部からのお願い	9
・ ウォッチングレポート	10
・ 会計からのお願い	12
・ ウォッチングプラン	13
・ 事務局だより	14
・ 理事会だより	14
緊急連絡先他	14



日高山脈の名峰 カムイエクウチカウシ

会 長 後藤 言行

今年度の全道研修会は、6月24日・25日に石狩浜において実施されました。この研修会は(財)日本自然保護協会との共催によるもので、海岸植物の生態観察および調査の方法などを研修しました。

(財)日本自然保護協会は、全国的に海岸植物群落の調査を進めてきました。調査の結果は、立ち遅れている海岸の自然環境保全のために、行政など各方面に提言を行う際の基礎的なデータとなるものです。そしてこの調査の特徴は、ひろく市民の参加を呼びかけていることです。

調査期間の一応の目安は3年間で、今年はその最後の年でした。北海道において調査方法などの研修会が持たれたのは今年が初めてですから、この調査のことを知らなかった人も多かったのではないかと思います。私自身も調査活動が行われていたことすら知りませんでした。調査終了日が9月30日と迫っている中で、どれだけの調査ができるだろうかとの戸惑いもありました。

しかし、全道研修会で調査活動の意義と具体的な調査方法を学んだ「協議会」の、組織としての責任からも、この北海道の海岸を「未調査」のままに終わらせるわけには行きません。そこで「会員の皆さんのエネルギーに頼ろう！」とばかりに、7月5日付の八ガキ「海岸植物群落の調査に参加してください」をお送りしたのです。

多くの方々が呼びかけにこたえてくださって、10月13日現在で37名の方から64本の調査報告シートが寄せられているとのこと。「9月に入ってから北海道から調査用紙を請求された方がたくさんいらっしゃるって、調査数はまだ増えることが期待できます。」とは開発法子氏のお話です。

短い取り組み期間でしたが、会員の皆さんの熱い思いと行動力の底力を感じました。調査に参加・ご協力いただき本当にありがとうございます。

そして、それにもましてありがたく思ったことは、実際に調査活動に参加できない状況にあった多くの方も、調査のことを心に留めてくださっていたことでした。偶々お会いしたとき、あるいは電話や手紙で、「今回はやる条件がないけど、また呼びかけてください」との声をたくさんの方から掛けていただきました。そのうちの一人、せたな町の荒谷瑠美子さんの手紙の一部を、本人の承諾をいただいたので(チョット強引でしたが)ご紹介します。「・・・前略・・・海岸植物群落の調査の

件です。誠に申しわけありませんが、主人の療養生活と、里の親の介護が重なり・・・中略・・・海岸に住み、条件にかなっていないながら残念ですが、時間がありません・・・後略・・・」

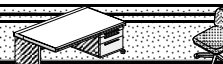
8月から9月にかけて、小樽～余市、寿都～島牧の海岸を見る機会を持ちました。「海岸の自然は痛めつけられているんだろうなあ」と、観念的には理解していたつもりだったのですが、これほどひどい状況になっているとは思いませんでした。都市に近い海岸は、主にレジャーの影響で「バギー車の轍跡を先頭に踏みつけ」や「海水浴客の残した、あるいは不法投棄されたゴミ」で痛々しく荒れていました。都市から遠く離れている海岸では、ハマベンケイソウやハマボウフウの群落が残っている一方で、「北海道南西沖地震の後にひどくなったといわれる高潮の対策」ということで、コンクリートの高い防波堤が延々と続き、帰化植物のオニハマダイコンが大群落を形成していました。



島牧海岸の堤防 (高さ7m 村役場職員談)

海岸の自然環境は、他の環境と比べても過酷なものです。タダでさえ厳しい条件下にある海岸植物の環境をこれ以上悪くするわけには行かないと強く感じました。

海岸植物群落の調査は一応今年で終了しましたが、長大な北海道の海岸線には調査の空白地域がたくさん残っています。データを引き続き積み上げることはとても大切なことですから、可能な限り来年度以降も調査活動を行っていただきたいと思います。そして、今年度に調査した分で未報告の調査シートがありましたら、遅れても報告してくださいようお願いします。



2006年度地方研修会報告

テ ー マ： キノコというものをもっとよく知ろう
 実 施 日： 2006年10月 1日（日）10:00 ~ 15:30
 場 所： 苫小牧市 アルテン、錦大沼公園
 講 師： 豊澤 勝弘さん（北海道自然観察協議会）
 参加人数： 一般参加 14名、講師・スタッフ 3名

午前は約2時間、講義室での研修を行い、午後1時から2時間半野外で実習した。まず配布された資料に基づき、最近の菌類の分類のしかたが変わってきていること、分類学上の位置、キノコの生態の特徴などが説明された。次にスライドを使って、北海道に生息する多くのキノコの形態、生息環境、分布などの特徴などが解説された。さらに、展示された実物、標本、写真により、かさの色や形、ひだの様子、柄のつき方、つばやつぼの形などで同定する方法などを学んだ。

昼食後、フィールドに出て、午前中学んだことを実地で研修した。小沼の周辺を歩き、見られたキノコについて、次々と説明、質問が繰り返された。今年は高温状態から一気に気温が下がったので、秋のキノコの出が悪いとのことであったが、それでも数十種類のキノコに出会うことができた。

キノコについて体系的に学んだのは初めてという参加者が多かったようだが、分かりやすい説明と実物、標本、写真を使った解説により、キノコの世界に入ることができたと思う。講師、現地スタッフの皆さんに感謝したい。

（大表 章二記）

（ 感 想 ）

- ・スライドでは数多くの種類を見せていただき、名前由来も分かりやすい説明で、大変勉強になりました。環境に及ぼすキノコの役割なども考えさせられた研修会でした。講師の先生が、キノコの知識が豊富で、ほとんどのキノコの名前を知っているのがびっくりしました。たくさん写真を撮ることができたので、これをHP等で紹介したいと考えています。
- ・大変役にたった研修会でした。豊澤さん、スタッフのみなさんありがとうございました。
- ・何百種類ものスライドを見せてもらい、私の知

っているのはその中の何十分の一で、専門的な研修会で勉強になりました。

- ・講師の人柄がにじみ出たいい研修会でした。樽前山の麓、湖、川等の立地にも恵まれ、環境がよく、植物相も豊かで、キノコに止まらず、内容の濃いものになった。時宜を得たテーマの研修会で十分期待通りで満足に感じます。折角の素晴らしい研修会でしたのに参加者が少ないことは誠に残念に思いました。相乗りなどを呼びかけ、足を確保するなどの手立てが是非欲しいと感じました。



キノコはまず木の近くで探します



タヌキノチャブクロ



ベニヒガサ

第2回 コルチカムと生ゴミ堆肥

NPO 法人 北のごみ総合研究所
代表理事 神山 桂一

札幌では丁度今頃の季節（9月中旬から10月初旬）、本州の野原に咲き出すヒガンバナ（マンジュシャゲ）と同じ様に、花壇の一隅に突然花の芽が伸び出して、10cm ばかりの茎の先に淡いピンク色の花が咲き出します。ご存知の方も多いコルチカム（イヌサフラン）です。葉は雪が降る少し前に土の上に顔を出して、雪の下で春を待っていますが、その葉は6月頃には枯れてしまい、どこに花が咲いていたのか分からなくなってしまうことがあります。

この花は淡いピンク色の花弁を開き、その内側に黄色の雄蕊と、まん中に伸びた雌蕊があり、先端は裂けて尖っています。花は春にまっ先に咲くクロッカスに似ていますが、もっと大きく見事です。いつの頃からか我が家の庭に植えられるようになりました。ヒガンバナはヒガンバナ科ですが、こちらはユリ科だそうです。正しくはイヌサフランというのが和名だそうです。この「イヌ・・・」という冠がつくのはこの花にとっては心外かも知れません。

コップなどに火山れきや赤土、あるいは砂か水ごけを入れて、その上にこの球根を載せておくと簡単に室内でも



花を楽しむことができます。ものの本によると球根や種子（なかなか実はできませんが）の中にはコルヒチンという成分が含まれていて、これが名前の由来でもあり、有毒物質だそうです。種子無しスイカを作るのに役立つようです。

我が家の庭のコルチカムは、毎年夏の終わりにチューリップや水仙の球根を植えつける少し前に植えてやります。今年は夏が長く暑かったので、

掘り上げていた球根の芽が伸び出すのが遅く、例年より植えてやるのも少し遅れました。でも数日前にはきれいな花を見せてくれました。この庭には毎年自家製の生ごみ堆肥をタップリ入れてやりますので、コルチカムの球根もどんどん大きくなり、また数も増えてきます。

あまりに増え過ぎたので、数年前には夏の終わりに開かれるフリーマーケットで一玉10円で売り出した程です（ただで差上げて良かったのですが）。玉ネギ位の大きな球根でしたので、お客さんから食べられませんかと尋ねられたほどです。上記の様に有毒物質が含まれているので残念ながら食用にはなりません。

花壇に自家製堆肥を使うようになってすでに二十年近くになります。今ではミミズもたくさん棲息している土壌になっています。野菜はあまり作っていませんが、雑草と花が競争しながら成長している庭です。時々、カボチャが自生してくるのは堆肥の中に生き残った種子から発芽したものでしょう。

今年は植えた花の苗の間にトマトが生えてきたので、少し離れた場所に植えかえてやりましたら、立派に実をつけて毎日の朝食に取りたてのトマトを楽しませてくれました。ミニトマト2株と普通サイズのトマト1株が育ちましたが、これだけで二人家族の我が家では食べ切れない程の収穫量でした。味はもちろん大満足でした。

最近、各地の市町村で生ゴミを分別収集して堆肥化する構想が持ち上がりながら、できた堆肥の利用先がうまく見つからなくて、せっかくの計画が立ち消えになることが起こっています。私が住んでいる北広島市も将来は生ごみの分別収集を行ってバイオガス化することになりました。堆肥化することを望んでいた市民も多いのですが、市内の農地が都市化によってどんどん減ってしまい、また利用する農家も少なくなったからです。大都市札幌の周辺に位置する北広島市にとっては仕方がないことかも知れませんが大変残念なことです。

一方で農家の方が堆肥の効用は知っていながら、都会の生ごみで作った堆肥を使いたくないという声も聞きます。生ごみを養豚に使わなくなった理

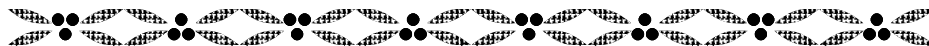
由はある程度は理解できますが、何故生ごみ堆肥が嫌われるのでしょうか。農地は都会のごみ捨て場ではないからというのは正当な考え方ですが、農地から収穫した作物を原料とした食品や野菜の加工屑が家庭から捨てられて発生した生ごみを、元の土壌に返すことはぜひ続けて欲しいと思います。

また生ごみ堆肥を土壌に返すことは個人でもできる身近な物質循環であり、子供たちにも見せてやれる環境教材になるのと思います。それができない理由は何でしょうか。どこがいけないのでしょうか。単なる農家の偏見だけが理由とは思いませんが、生ごみ堆肥を障害のないように農地に還元できるように、生ごみの分別、収集方法の工夫、堆肥化の方法、品質の安定化と品質表示、使用方法の周知など、もっと考えてみる必要があります。

5年ばかり前から北のごみ総合研究所と市民団体の循環（くるくる）ネットワーク北海道が道民の皆さんにお勧めしているダンボール箱を使う生ごみ堆肥化の方法は札幌市ではいろいろの制度を使って市民に普及させようとして下さっています。

今では道内の各都市や町村だけでなく、この方法が全国に広がってきました。寒い北海道の冬の間も家の内部で生ごみの堆肥化ができるように考えた方法でしたが、暖かい時期にも使えるし、手軽にできて経費がかからなし、できた堆肥も品質の分析結果を見ても安心して使える物になっていることが判り、遠くは福岡県でも長野県や東北地方でも熱心に広めて下さっている方がいらっしやいます。

家庭での生ごみ処理がこうした方法で進められ、ごみ減量の大きな力になってきたことを嬉しく思っています。



第17回 滝野の自然に親しむ集い 決算報告

滝野会計担当 横山 加奈子

本年度の収支決算は下記のようにになりました。

収入の部

項目	金額	備考
参加費	180,900	一般参加者 38人 135,300 指導員 13人 45,600
懇親会参加費	7,000	500×14人
計	187,900	

支出の部

項目	金額	備考
学園利用納入金	126,800	施設利用料 38,930 食費 62,170 シ-ツ 9,800 キャンプファイ- 10,000 薪代 5,900
交通・通信費	23,760	ハキ・切手代 13,760 渉外費(交通・通信) 10,000
事務用品・写真代	13,446	各種用紙代他 9,722 写真代 3,724
飲食費	14,440	懇親会費 12,920 ハナ 1,335 麦茶 185
保険料	5,550	150×37人
入園料	8,460	大人280×27人 子供50×18人
備品	990	ステンスタツ
その他	1,420	打合せ会議室使用料・振込手数料
計	194,866	

2006年度収支決算

収入計 187,900 - 支出計 194,866 = 収支 - 6,966 繰越金より補填

繰越金収支

前年度繰越金 239,038 - 今年度補填 6,966 = 次年度へ繰越金 232,082

会員の皆さまへ 各部へ入部のお願い

2006/11/15

会長 後藤 言行

私達の自然観察協議会も、創設以来20年を過ぎ、会員数も全道で400名を越えるまでに発展してきました。現在、研修部・編集部・観察部の3部体制で企画運営を行っていますが、このところ部員数の不足が目立ってきました。そこで、更なる協議会の発展を目的として、新たに各部に参加していただける部員を募集することにいたしました。

各部の案内をご覧になり、参加協力いただける部をお選びの上、同封のアンケート葉書に記入して11月30日までにご返送くださるようお願いいたします。

なお現在既にいずれかの部に所属されている方もご記入をお願いいたします。

札幌中心の活動になりがちですが、全道各地の皆さんの参加を強く希望いたします。

研 修 部

研修部の仕事は会員の「研修の場」を企画・運営することです。現在、会が行っている予算措置を伴う研修会は全道研修(1泊2日の日程が基本) 1回、地方研修(1日の日程が基本) 2回

で、3年前から「地方研修」の一回分を「新会員向けのフォローアップ研修」として実施しています。

研修会の実施は「自然観察指導員としての資質を高めたい」という私たち自身の要求であるばかりでなく、研修会を開催する地域の会員同士の連携・協力体制を強め、地域活動を活性化させたいという狙いもあります。

なお、今後は全道規模の3回の研修会だけでなく「ミニ研修」も応援してゆく体制も考えたいと思っています。一例を挙げれば「通常行っている『下見会』を少し膨らませてテーマを決め、資料も若干用意して全道に発信する」、「気負わず手軽に『いつでも、どこでも研修』、ただし呼びかける範囲をちょっと広くして」などではどうでしょうか。

行事の企画・運営に参加したい方の入部を歓迎します。

編 集 部 へ どうぞ

北海道自然観察協議会では、みんなが観察部みたいなものです。

編集部は陰に隠れて良くわからないところ、そのように思っていないですか。

編集部では、全道各地にいる会員を選び、手紙でフィールドニュースの原稿を依頼したり、感想文の対象とする観察会を選んだりしています。会報の原稿をチェックすることも大事な仕事です。

発送の時は、会員の皆さんへ届ける案内や名簿などを会報とともに同封する作業をします。これが一番の大仕事です。とは言っても事務局や各部の協力も受けて楽しくやっています。

よいことは、集まって、わいわいがやがやとやれることでしょうか。思わぬ情報交換が出来るということもあります。

参加できるときに、出来ることからやってみませんか。会報発送の作業の時などは大いに歓迎します。

観 察 部

観察部の活動のメインは観察会予定表の作成です。

全道の会員から観察会企画を募集し、日程の調整を行い、指導員用と一般用の2種類を作成・印刷します。時期的には1月から3月ぐらいまでが忙しく、部会もその時期に集中します。また、各観察会ごとにデータを集計し年度末に報告書を作成したり、観察会名簿用紙の作成、印刷なども行います。

研修部や編集部のように、はっきりとした位置づけがない分、説明しづらい部分がありますが、観察会のあり方や、観察会を充実させるための備品の整備など、観察会に関連した諸事、雑務一般と思ってもらえばいいのではないのでしょうか。

より良い観察会を目指して、力を貸していただける皆さんの参加をお待ちしています。

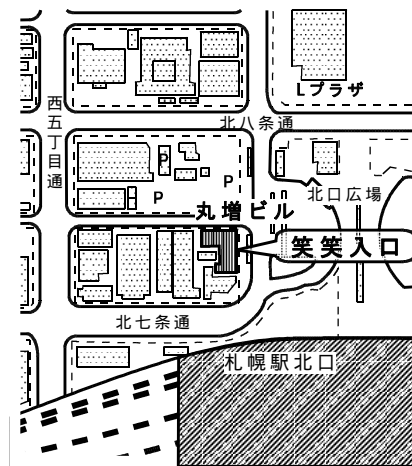


2006年 忘年会のお知らせ

この忘年会で日ごろ鬱積していることや、
ご意見をどんどん述べてください。
自然の中にいるような、楽しく、
そして気持の通い合う一時を一緒に過ごしませんか。

日 時： 2006年11月25日（土） 18:30 ~ 20:30
場 所： 「笑笑（わらわら）」
札幌北口駅前 札幌丸増ビル地下1階
（ JR札幌駅北口より徒歩2分）
札幌市北区北7西4 Tel 011-717-2088
会 費： 飲み放題 男性3,300円 女性3,000円
当日会場にていただきます。

出席の連絡は：事務局・須田へ Tel/fax 011-752-7217
E-mail zan00711@nifty.com
11月22日までにお申し込み願います。



事務局からお知らせ

《 救急救命講習会のご案内 》

責任あるガイドとしてとっさの処置ができるように受講しましょう。
以前に、受講された方も再挑戦してみませんか。

AED（自動体外式除細動器）の使用方法も練習します。

【日 時】： 2007年1月28日(日) 9:00 ~ 16:00
【講習会場所】： かでの2・7 940会議室 （中央区北2西7）
Tel 011-231-4111

【指 導】： 札幌市大通消防署、日赤北海道支部

【費 用】： 日本赤十字救急救命冊子代50円

【日 程】： 9:00 ~ 12:00 心肺蘇生 AED

人工呼吸法(人形使用)、AED使用法講習 他。

以前の受講者は修了証(カード)を持参してください。

12:00 ~ 13:00 休憩(要昼食)

13:00 ~ 16:00 救急処置

傷と止血・包帯・骨折・捻挫・熱中症・虫さされ など。

【用意するもの】： 実技のしやすい服装(ジャージ他)、筆記用具、昼食。

三角巾(100円以外で正式のもの)

この講習会は、北海道アウトドア救急救命関連講習の受講資格には該当しません。
同封の申し込み用紙をハガキに貼付し、1月9日必着で郵送してください。

問い合わせ：事務局 Tel・Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com



出発点

旭川市 船橋 健

私が自然に対して強く興味を持ち始めたのは、7年前自然観察指導員になってからです。この時、継続的に自然を見るのがよいと教わり、何処をどのように何を見たらと迷い、自宅から比較的近い旭山公園を見ていこうと思い、何も判らないまま歩いて見ると毎回の様に初めての花に出会い、新鮮な感動を覚え、それが楽しく、次はどんな花に出合う事ができるのかと、「アッ」と言う間の一年でした。花の名前が判らないのでカメラで撮って図鑑と睨めっこしながら名前を同定して行く、こんなに熱中出来る事があるとは想像もしていませんでした。観察記録の仕方等判らないが、我流で3年程記録したものを元に花ごよみを作ったりもしましたが、今でもどの様に記録を取るのか判りません。誰か御指導下さい。

私がフィールドにしている旭山（旭川市、今や全国的に有名になった旭山動物園のある所）は、二つの頂があり、一つはテレビ放送アンテナが6本建つ旭山公園の頂上標高260mと、もう一つは元スキー場があった標高295mの旭山です。私達は二つ合わせて旭山と言っています。通常の散策路は旭山公園のある山の中腹を四国88ヶ所の分霊として石仏が安置されている所を回るコースです。1時間半程で1周出来ます。

春は、フクジュソウ・カタクリから始まります。サンカヨウ・サルメンエビネ・エゾクモキリソウ・ベニバナヤマシャクヤク等が人里近い所で見られる事が出来る穴場でもあります。またイカリソウ・ホタルブクロ・トウゴクシソバツツナミ等逸出植物と思われる物もあります。旭山全体で報告されている植物種類は368種です。鳥の観察、冬の動

物の足跡観察でもエゾリス・キタキツネ・エゾユキウサギ・エゾクロテン・エゾシカ等、運が良ければ会う事が出来る場所でもあります。機会がありましたら一度お越し下さい。

私は、これからもこの場所を歩き続けていきたいと思っています。

聴こえない自然観察指導員として

千歳市 川北 昭

2003年10月、白老で開催された自然観察指導員講習会を受講してから早いもので4年目になります。以前から自然に関することに興味があったのですが、講習会に参加してからたくさんの指導員の方々とふれ合い自然観察会を通じて貴重な体験をさせて頂いたことをとても感謝しています。

私は聴覚に障がいがあり、補聴器を付けても言葉聞き分けることができません。日常会話は手話で行っていますが、健常者との会話はほとんどが手話通訳が必要になってしまいます。しかし、最近ではノーマライゼーションという言葉をよく目にします。少しずつ障がい者に対する理解も広まっているように思います。

昨年から私のフィールド千歳市で「手話で楽しむ自然観察会」を行っています。今年は残念ながら雨天の為中止となりましたが、去年は先輩指導員にご指導頂き地域のろうあ者と、手話に興味のある方々の参加のもと楽しく自然観察会を行うことができました。まだまだ試行錯誤していますが、これからも障がい者に社会参加を提供すると共に一般の方々と交流を通じて自然の大切さを学んでいきたいと思っています。そして今後は環境問題なども考えながら少しでも貢献できるような活動を目指したいです。

参加者の声

千歳市 紋別岳 (06/9/2)

手稲区 女性(匿名希望)

去る9月2日、かねてよりの望みであった紋別岳観察会に参加の機会を得ました。初めての地へ出向く心細さも千歳駅にて偶然お会い出来たお仲間の方の御親切で嬉しいスタートとなりました。

当日は朝から素晴らしい初秋の空のもと、準備体操を済ませ、いよいよ観察開始です。セミの合唱に迎えられ初めて出合ったミヤマニガウリの可憐な花と実やジャゴケ、類似植物の比較方法、湖とその周囲の山並みの名と由来、賑やかに舞い群自然観察 81号 (8)

れるアキアカネやタテハチョウらの昆虫、そして山頂からの眺望・・・等々、感動いっぱいです。

恵まれた自然の中で多くの出会いと実に多様な知識を頂けたことは指導員の方(Mさん)のお陰があつたの事と思いを深く致しました。心からお礼申し上げます。

清田区 平岡公園 (06/9/10)

清田区 加納 勝義

しとしと雨、「やめようかな。」と思いつつカップをもって平岡公園の駐車場へ向かう。

「雨なのによく来ましたね。」とベテラン指導員佐藤さんの明るい笑顔が待っていた。梅で有名な平岡公園は自宅から歩いて30分位である。しかしこのような観察会がないとめったに足が向かない。梅の咲く時期でさえ来ない時もある。いつも見ている「ウォッチングガイド」から参加がはじまった。3年位であろうか。湿地をふくむこの公園は、多くの動植物が住んでいる。参加してはじめて分かった。そして、この地域に住む佐藤指導員でなければできない歴史等をふくめた実践的な説明がすばらしい。今回は「参加者をふくめた多くの目が一層観察力を高める。」が強く心に残った。小雨の降るなか、忘れていたサワフタギ、アケシバを発見し、白い花を咲かせていたオオカメノキのみごとな赤い実を観たとき、「やめようかな。」の気持ちは吹っ飛んでいた。

当別町 医療大学薬草園 (06/10/21)

中央区 辻田 弘子
観察会に参加しての感想は「楽しかった！」の一言に尽きます。薬草園を見て背後の丘陵地を歩き、指導員さんのわかりやすい説明を聞きながら、葉や木を触ったり匂いをかいだり、木の実を味わったりと五感をふる活用して楽しむことができました。また指導員さんや参加者の人達とも気軽に話ができて、和気あいあいとしたとてもいい雰囲気の会でした。

時間もわりと余裕があり、のんびりできて良か

ったと思います。途中でたぬきに出会えたことも感激です。会に参加して少し自然に近づけたような気がします。もっともっと友達になりたい・・・また参加しますのでよろしくお願いします。

指導員さん、今日は楽しい秋のひとときを過ごさせていただき、ほんとうにありがとうございました。

厚別区 大谷地の森 (06/10/22)

厚別区 杉山 鐘一
生憎の肌寒い天気の中、親切にご案内頂き有難うございました。出発地点での大谷地周辺の地理や開発についての説明は興味深く引きつけられました。小生観察会は初参加です。以下、当日感じたことを述べさせていただきます。

内容的にコナラ、ミズナラの判別だけでは少し物足り無さを感じました。あの森にはミズバショウの群生地やオオウバコリ自生地、カモの飛来している池などもあり、もう少し広範な見学が出来たらと思いました。又、欲を言えば観察会のポイント解説メモがあれば後々の勉強にも役立ったと思います。(例；コナラ、ミズナラの違いや植生など)

用紙代は負担しても良いと思います。何れにせよ自然や地理に関心をもちたい機会でした。会の益々の発展をお祈りしています。

観察部からのお願い

今年もまた、来年度(2007年度)の観察会予定表作成の時期が近づいてきました。観察部では、全道各地の会員の皆さんから来年度の観察会企画を広く募集いたします。今年度観察会実施の皆さんは勿論のこと、新たに観察会を企画してみたいフィールドをお持ちの皆さんから、たくさんの応募を期待します。

つきましては、今年度観察会予定表に準じ、

「月日」、「観察地」、「テーマ」、「集合場所・時刻」、「交通機関」、「連絡先」等の各項目を記入し、下記宛郵送してください。

なお、保険適用(観察会集合場所から解散場所まで)の関係上、当会では、参加者を観察会開催地まで指導員の車に同乗させることは、原則として認めておりません。企画・運営にあたっては、その点に留意し開催場所、および集合場所等の設定を行うよう、よろしくお願いいたします。

募集期限は11月30日までとし、12月中に観察部会で、日程調整などの検討を加えた上で、来年2月の理事会に提出する予定です。

なお、追加および訂正等につきましては、1月末まで受付いたします。

観察部 山形誠一

〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14

恵庭市 カリンバの森 '06年 7月2日

参加者24名 指導員 5名 千歳民報

<カリンバの森で、悠久の歴史と夏の草花の観察>

恵庭市内での行事が多い日にもかかわらず24名の参加があり、うれしいかぎりでした。カリンバの森へ行く途中の空き地、人の手の入れ方で植物の植生が大きく変わる、その中でも特に身近で、あまりにもよく知っているシロツメクサについての説明をする。

シロツメクサの斑の入り方のパターンが4パターンあり、シンナーで増えるなどの話をする。知っているようで、本当はよく観察していないものを見てもらう。

また、旧墓地を公園にしたところでは、私自身初めて見る植物があり、参加者に図鑑で調べてもらう、なかなかわからずにいたら、まれにある白花のほうで図鑑の写真ではわかりませんでした。正体はムラサキサギゴケ。

国史指定のカリンバの森では、縄文時代の話や出土品説明が指導員よりあり、カリンバの森の周囲の変貌する様子と共に森の樹々や草花を見る。あっと言う間の2時間、恵庭駅に15分遅れの到着となり、無事解散。

(小林 英世 記)

手稲区 手稲山 '06年 8月20日

参加者26名 指導員 4名 晴 朝日、読売

<ゆったり山歩>

路線バスの遅れがあり、出発時間が予定よりも30分程度ずれ込む状況となり、スズメバチや熱中症についての予防を説明した後に、山道をのんびりスタートとなった。

参加者の中から、「手稲山には良くスキーで来ているが、この時期の手稲山は花などがたくさん見られるとは知らなかった。」と声が上がっていた。

スキー場下、ゲレンデに広がる今が見頃のヤナギランを見て、参加者一同大感激！

山頂では先客の縦走ツアーの方が20名程昼食をとっていて、その中に入り混じっての遅い昼食をとったが、ほぼ満杯ですし詰め状態！

下りは高校野球の駒苫と早実の対戦状況を聞きながらとなり、途中途中の経過を皆で共有しながら、無事下山することが出来たが、山頂からロープウェイ下山もあり、体力に応じた観察会でした。

(高田 敏文 記)

千歳市 紋別岳 '06年 9月2日

参加者15名 指導員 4名 快晴 道新、苫小牧民報

<秋の紋別岳 秋の花>

高く澄んだ青空の下、紋別岳自然観察会が一般参加者15名、3班に分け9時50分出発。ヒヨドリバナ、エゾトリカブト、キツリフネの出迎えを受け、一路頂上を目指しのんびり登りはじめる。アキノキリンソウ、コクワ、クサギなどを見ながら樹木の話・野草の話、そして野鳥の話をしながらか高度を上げる。

樹木の間から時々顔を出す支笏湖に「おおすごい」と歓声を上げる。抜けるような青い空、輝く湖面、周囲の緑、自然はすばらしい。一人でも多くの方に地球が造り出したこの景色を見て欲しいと思う。頂上からは樽前山と風不死岳が湖面に映り、太平洋、日本海、日高の山々、となりには恵庭岳がどっしりと私達を見ている。

札幌の街、千歳、恵庭はもちろん、苫小牧の長い煙突から吐き出す煙も見える。参加した方々は来年もまた来ますと今日の景観にうっとりです。予定通り15時、今日の感動を胸に解散しました。

参加者が15名と少なかったのが大きな反省点です。広報の問題かもしれません。新聞は勿論のこと、NHKテレビの地方告知版などの利用も考えたほうが良いのかもしれませんが。これはある参加者の方のご意見でした。参考にしてほしいと思います。

(今野 善行 記)

清田区 平岡公園 '06年 9月10日

参加者 9名 指導員 3名 雨

<原っぱに造った湿原の変わる様子を観察する>

早朝から雨です。下見は9時から4名で行い本番に備えました。観察会は10時30分スタート。雨の為に予定変更し午後の部はとりやめることで了承していただきました。

草木の実は、観察順にツリバナ、ヤマブドウ、シナノキ、オオカメノキ、ウド、ヤマウルシ、ミヤマガマズミ、ルリミノウシコロシ、ジイソブ、コクワ、タラ、ズミ、チゴユリ、マイヅルソウ、ツルアリドオシ、アクシバ、ナツハゼ等。

人口湿地では、エゾミソハギ、ミゾソバ、タニソバ、アキノウナギツカミ、エゾシロネ、ツリフネソウ、ナガボノシロワレモコウ、ドクゼリ、オオバセンキュウ、フトイ、ガマ、アブラガヤ、カンガレイ等。

クロバナロウゲの葉に雨粒がつき、周りの草の

中から浮かび上がって見えました。また暗い林床には、ギンリョウソウモドキがお化けのようです。雨の中、11人の小さな観察は楽しく12時30分に解散しました。

(佐藤 佑一 記)

中央区 藻岩山 '06年 9月17日

参加者20名 指導員 1名 晴

<もっともっと藻岩山>

秋の藻岩山は昨年からの企画でしたが、昨年度は雨で中止になったため、今年が初めての実施となりました。

時期的に、アキノキリンソウやエゾノコンギク、ヨツバヒヨドリなど、キク科の植物がとても多く、さながらキク科品評会。

秋の七草も、ハギ、ススキ、クズ、ナデシコの4種が観察でき、秋ならではの観察会となりました。

(山形 誠一 記)

蘭越町 目名川 '06年10月7日

参加者24名 指導員 7名 雨曇

<サケの遡上・命のドラマ>

雨の中、小樽、札幌などから多くの参加者を迎え総勢31名が目名川に集まった。はじめに「日本海さけ・ます増殖事業協会」のご好意により、捕獲場の見学をさせてもらう。捕獲槽に集められたサケを雌雄に分ける作業を食い入るような目で観察する。「この年になって、初めて見た」と感動を語る熟年のご婦人。「これがオスで、あれがメスだ」と区別ができて喜び子ども。

15分ほど歩いて川原に出る。ホッチャレ(サケの死骸)が散乱している。野鳥に食われてほとんど骨だけになったもの。目玉だけが食われたもの。まだ生きていたようなホッチャレなども横たわっていた。そして流れに逆らって勢いよく遡上をするサケもたくさん見られた。札幌からの参加者は「豊平川でも遡上しているが、こんなに近くでリアルな姿は見られない」と語る。アユがホッチャレの周囲に群れているのを発見して、なぜ集まっているのだろうかと言合う参加者のグループもあった。

雨模様で気温も低く風もだんだん強くなったので、早めに観察を打ち切ったが、皆満足そうな表情であった。

今回の観察会は地元の「蘭越自然探検隊」との共催で、蘭越町の後援もいただいた。バスの配車もでき、自家用車やタクシーを使わずに参加することになったので、札幌圏からも多くの参加者を迎えることができた。ただ今回はバスの配車が可能になったのは8月だったため一般参加者への

宣伝ができなかった。年度当初の計画に盛り込めるとさらに多くの人の参加が見込まれると思う

(大表 章二 記)

北区 北大構内 '06年10月8日

参加者 4名 指導員 1名 雨

<エルムの秋>

悪天候で迷っておりましたが、実施の問合せ電話に背中を押されたように、雨の中で観察会を行いました。

雨を吹き飛ばすような、パワー溢れる5人の女性で、下見さながらに目と口が動きます。正門～百年記念館～弓道場～大野池～花木園を巡り、種子散布様式のうち、動物散布や風散布、重力散布を中心とした木の実を観察しました。

シラカンバ、イタヤカエデ、ネグンドカエデ、ニワウルシ、カツラ、ホオノキ、キタコブシ、ハクウンボク、エゴノキ、ミズナラ、アカナラ、トチノキ、セイヨウトチノキ、ヒメリンゴ、ズミ、エゾノコリンゴ、オオタカネイバラ、ルブリフォリアバラ、アーノルドサンザシ、ハマナス、ノイバラなどです。

紅葉には少し早い構内でバラ科の赤い実が目につきました。

(須田 節 記)

中央区 円山公園 '06年10月15日

参加者11名 指導員 5名 曇

<秋の円山公園 木の実と紅葉>

朝方の雨も観察会の頃には上がり、予定通りのスタート。

16人一団となって、紅葉には少し早い公園内を、木の実中心に見て回りました。お決まりのアサダからはじめて、カツラ、カエデ、ニワウルシ(シンジュ)と、参加してくれた指導員が、それぞれの知識と経験から色々な説明をし、参加者からの質問も多く、瞬く間に時間が過ぎて行きます。

予定していたコースを大幅に短縮。それでも円山のブナ科樹木(自生、植栽をふくめ円山公園と、隣接するコースの森とで7種)についてはすべて見てもらいたかったため、参加者の理解を取った上で1時間近く延長して観察会を終えました。

(山形 誠一 記)

当別町 医療大学薬草園 '06年10月21日

参加者31名 指導員 7名 曇晴 読売

<紅葉の丘を散策しよう>

前日に比べてかなり冷え込み、開始直前には雲が広がって暗くなり、不安な開会だったが、予想に反して31名という参加者があり、2班に分かれての散策となった。

会場は医療大学裏の北方系生態観察園で、緩やかなアップダウンのある林である。ハウチワカエデの紅葉、マムシグサ、ヤマシャクヤク、オオカモメヅル、アロニア、アクシバなどの実が枝や茎に残っていたり、キハダ、シナノキ、オオバボダイジュの実が落ちているのを観察し、時には、コクワやヤマブドウの実を味わいつつ進み、湿った土地では、シダやコケ類の鮮やかな緑に感嘆の声も上がった。日射しの下では、コシアブラの白っぽい色の葉が印象的で、黄や赤ではない変化があることに参加者だけでなく指導員も興味深く観察した。

他地区から参加した指導員や経験の深い参加者に助けられて、この季節ならではの自然を満喫した観察会だった。



マムシグサの実

(林 迪子 記)

厚別区 大谷地の森公園 06年10月22日

参加者30名 指導員 6名 曇 れじおん、まんまる新聞
<秋を探そう>

前日までの天気予報は雨のち曇りということで、気掛かりではありましたが、当日は雨が一瞬パラついた肌寒い日にもかかわらず、結構な数の人たちが参加してくれました。

集合場所の大谷地バスターミナルから、ナナカマドやネグンドカエデの樹木を見ながらの道程、根岸さんにより大谷地の歴史、地理その形成の説明を聞き、本日の目的地の大谷地の森公園へ。

3班に分かれてエゾノコリンゴとコリンゴの葉、果実を比較、味わい、コナラとミズナラの葉柄、実、殻斗を観察。歩くたびにガサガサと音を立てる晩秋のイタヤカエデやハリギリなどの紅葉の森を散策しました。

今日参加した人たちが、体験し、学び、感じてくれたことを、日々の生活の中で思い出し、また来年も参加して下さることを願っています。

(澤田 久美子 記)

会計からのお願い

☆アンケート（年会費の「自動払込み」）の提出をお願いします。

9月の会報（NO.80）に同封した自動払込みのアンケートは全会員の5分の1程度しか届いておりません。これだけの集計では実施か否か判断ができません。

そこで、アンケートの締切りを11月30日まで延長することにしました。まだ提出されていない方は、お手数でも、もう一度袋をお確かめの上、必ずお出しくださいようお願いします。

* 締切日より少々遅れてもかまいません。

☆会費の納入はお早めに

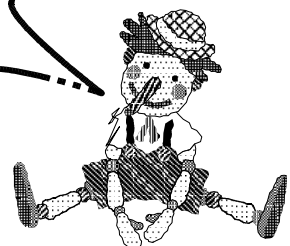
2006年度会費の入金がまだの方は、同封の振込用紙をお願いします。

- ・ すでに入金済みの方には振込用紙を同封していません。
- ・ 通信欄は住所変更等の近況報告にお使いください。
- ・ 差し支えなければメールアドレスを記入願います。

* 退会のお申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。届が出されるまで会費のお支払いをしていただきます。

* 郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 畑中 嘉輔



2006年度 観 察 会 ('07年1月6日 ~ '07年3月25日)

下見の日時は連絡先指導員に確認してください。

年月日	テーマ	観 察 地	集 合 場 所 ・ 時 刻	交 通 機 関	下 見	連 絡 先
2007年 1月6日(土)	「北大構内」観 察 会 雪氷観 察 会 (親子、子供持参)	札幌市北区 北海道大学構内	北海道大学クラーク会館前 10:00集合~12:00解散 定員25名、はがきで申し込み 小3以下は保護者同伴	JR札幌駅北口から徒歩5分 地下鉄南北線 さっぽろ駅、 北12条駅から徒歩10分 (北大構内は徒歩禁止)		須田 節 011-752-7217
申し込み要領 〒、住所、氏名、Tel、年齢を書いて葉書(家族巻記)で申し込み、1月4日必着。 〒007-0840 札幌市東区北40条東9丁目1-13 須田節宛 Tel・Fax 011-752-7217						
1月21日(日)	「北大研究林」観 察 会 冬の野鳥と冬芽の観 察	苫小牧市 北大研究林	北大研究林構内駐車場 10:00集合~12:00解散 ・必要に応じて昼食持参	JR苫小牧駅南バスターミナル市営バス 9:12発「01交通館前」行き 「美園4丁目」下車徒歩30分 無料構内駐車場有	1/21(日)	明野幸久 01238-4-2460 谷口勇五郎 0144-73-8912
2月4日(日)	「秋の里自然公園」観 察 会 冬芽と動物の足跡探し	白老町 秋の里自然公園	秋の里自然公園駐車場 10:00集合~12:00解散 必要に応じて昼食持参	JR秋野駅より徒歩10分	1/28(日)	新岡幸一 0144-83-2992
2月11日(日)	「西岡公園」観 察 会 冬の水源トレッキング	札幌市豊平区 西岡公園	西岡公園管理事務所前 10:00集合~12:00解散 カンジキ スキーは各自持参(一般参加者で、用意できない方は1週間前までに「連絡先」の指導員にご確認ください)	地下鉄南北線 澄川駅発「澄73」 「西岡水源池」下車		佐藤佑一 011-881-5337
2月18日(日)	「冬の円山公園」観 察 会 冬に耐える植物	札幌市中央区 円山公園	地下鉄東西線円山公園駅 1階/バス 待合所 10:00集合~12:00解散	地下鉄東西線 円山公園駅下車		山井誠一 011-551-5481
3月18日(土)	「真駒内公園」観 察 会 春の息吹を感じとろう。 ゲームをしながらアイスクリ ームや雲作りを楽しもう (親子・子供持参)	札幌市南区 真駒内公園	真駒内公園 屋外競技場駐車場 晴ヶ塔前 10:00集合~12:00解散 雪の入らない靴、替え手袋 小3以下は保護者同伴	地下鉄南北線 真駒内駅から 定鉄バス「南90」、「南95~98」乗車 「真駒内競技場前」下車		須田 節 011-752-7217
申し込み要領 〒、住所、氏名、年齢、Telを書いて葉書あるいはfaxで申し込み。3月12日締め切り。宛先 〒007-0840 札幌市東区北40条東9丁目 13 須田節 /fax 011-752-7217						
3月25日(日)	「冬の錦大沼」観 察 会 野鳥と林	苫小牧市 錦大沼総合公園	錦大沼総合公園駐車場 8:50集合 9:00~12:00解散 必要に応じて昼食持参 ・雨天原則決行・強風日中止	自家用車のみ あれば双眼鏡・ルーペ・図鑑など持参	3/24(土) 9:00~	佐藤幸典 0126-23-4415
3月25日(日)	「根志越排水路周辺」観 察 会 ヒシクイを送る・北沢川のヒ シクイ観 察 とゴミ拾い	千歳市 根志越排水路周辺	JR千歳駅前 9:00集合~13:00解散 ・定員25名、葉書で申し込み 応募者多数の場合抽選	千歳駅前より無料バス運行 千歳市環状果共催		明野幸久 01238-4-2460 諸高仁美 01238-8-1202
申し込み要領 〒、住所、氏名、年齢、Telを書いて葉書で申し込み。3月22日締め切り。宛先 〒066-6868千歳市役所環境果菜自然環境系 宛て 0123-24-3131						

2006年度 研 修 会 他

年月日	テーマ	観 察 地	集 合 場 所 ・ 日 程	交 通 機 関	講 師	連 絡 先
フォローアップ研 修会 11月19日(日)	始めの一步を一緒に!	恵庭市青少年研修センター 恵庭公園	恵庭市青少年研修センター 9:00集合~16:00解散 申込み:Email、fax、葉書、電話不可 ※切11月11日(土)	JR恵庭駅西口より徒歩25分 車/道央恵庭インターより15分	村井 雅之氏 (勇弘原野自然情報センター主宰)	中川 晃 0123-28-8927
忘年会 11月25日(土)	楽しく、気持ちの通い合う一時を	笑 笑	「笑笑」 18:30~20:30 札幌市北区喜田西4 Tel 011-717-2088	札幌駅北口前 札幌丸増ビル地下1階		須田 節 011-752-7217
救急救命講習会 1月28日(日)	とっさの処置が出来るように	かでの2・7	かでの2・7 940会議室 9:00~16:00 要昼食 9:00~12:00人工呼吸法、AED使用法也 13:00~16:00救急処置		札幌市大通消防署 日赤北海道支部	須田 節 011-752-7217

【事務局だより】



10月27日から2泊3日の自然観察指導員講習会が行われました。

自然観察から自然保護への視点に立ち、地球を海原に浮かぶたった一艘の地球号になぞらえて環境問題の講義がありました。

新しい仲間は28名です。名簿が同封されておりますので、観察会の下見や救急救命講習会など、気軽に参加できるようにお誘いをお願いいたします。

部活動をより活発にするために、会員全員に入部（編集部・研修部・観察部）の呼びかけをします。各部会の様子は会報に同封されています。入部されて少しばかりの力と時間をお貸しくださいますようお願い申し上げます。

忘年会を11月25日(土) 「笑笑」で開きます。楽しくやりましょう。詳細はこの会報に掲載されています。

【理事会だより】 理事会議事録から抜粋

第3回理事会 2006/10/3

- ・ 全会員へ 入部アンケートを実施。81号に同封する。
- ・ 2007年度の観察部事業については、会報81号で呼びかける。
- ・ フォローアップ研修会 11月19日 恵庭市青少年研修センター 8:30～16:00 会費600円
皆さん参加してください。
- ・ 郵便局自動振込みのお願いを今後も続ける。
- ・ 会則改訂は継続審議となり、改訂審議のチームで原案を作成し1月の理事会に諮る。
- ・ 2007年総会 '07年4月14日(土) 環境プラザ研修室1・2号 予定
総会後の講演会の講師を募っています。推薦をお願いします。
- ・ 「プロジェクトチーム20」チーム員補充 会長・副会長・事務局・池田・大表・竹林
- ・ 救急救命講習会に沢山の参加をお願いします。詳細は会報81号に同封してあります。
終了証番号・氏名・住所のみを記入して消防署に名簿を提出することになりました。
- ・ 1泊2日の全道研修会を、'07年3月に苫小牧ウトナイ湖サンクチュアリで追加実施の予定で詳細を検討中です。日本野鳥の会の観察会カリキュラムにしたがって観察会の実施方法を研修します。
宿泊先など決まりましたらお知らせしますので、多数の参加をお願いいたします。

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は -----> 郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会
-----> 会 計 畑中 嘉輔 〒062-0033 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13
/Fax 011-581-5439

観察会保険料は -----> 郵便振替口座 2770-9-34461 北海道自然観察協議会観察保険料
-----> 観察会担当会計 引地 輝代子 〒002-8022 札幌市北区篠路2条5丁目8-25
/Fax 011-773-2170

観察会報告書・資料は -----> 観 察 部 山形 誠一 〒064-0946 札幌市中央区双子山1丁目12-14
011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

研修会関係は -----> 研 修 部 大表 章二 〒048-1301 磯谷郡蘭越町蘭越町852-23
0136-57-5610

退会、住所変更の連絡他は -----> 事 務 局 須田 節 〒007-0846 札幌市東区北40条東9丁目1-13
事故発生等緊急時は /Fax 011-752-7217 E-mail zan00711@nifty.com

北海道保険保証 011-222-0877 (日・祝祭日は休み)

投稿や原稿は -----> 編 集 部 竹林 正昭 〒099-2103 北見市端野町3区378-3
/Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙スケッチ 八木健三



自然観察:2006年 11月 15日 / 第81号 年4回発行
(会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)

発 行 北海道自然観察協議会

編 集 北海道自然観察協議会編集部